



# 市立博物館のススメ

エプロン通信員 藤井 真人

突然ですが、皆さんは博物館に行つたことがありますか？

博物館というと、私が子供のころは独特の雰囲気を持った一般にはちよつと行きにくい場所だった気がします。薄暗くて埃っぽいやら静かな空間に、なにやら得体の知れぬ古臭いものが所狭しと並べられ、説明書きも難しくて部外者お断りの閉鎖的な印象がありました。しかし、それも昔の話。先日開館10周年を迎えた宜野湾市立博物館に行ってきました。

館内は大きく、常設展示室と企画展示室の2つに別れています。どちらも明るく広々とした部屋で、昔のような学校の理科室的な雰囲気はありません。顔見知りの館員の方に尋ねると、「大人のみならず児童にもわかりやすい地域学習の場を目指している」とのこと。「この博物館のセールスポイントは何ですか？」という問いには「五感で体感できる博物館」という答えが返ってきました。なるほど！大人向けの講座はもちろんのこと、小中学生を対象とした体験学習教室が頻繁に開かれています。この日も30人ばかりの親子が土器作りに奮闘していました。その後

の火熾し体験には飛び入りで私も参加。用意された弓状の火熾し器で麻の繊維に火をつけることに子供そっちのけで熱中しました。

常設展示室では、この地域が数千年前からどのように今につながるのかを知ることができません。いわゆる英雄、王朝の歴史ではなく、ごく普通の人々がどんな暮らしを送ったのか。そしてそれがどう変わってきたのか、です。

博物館展示の傾向が、単なる見学から体験を伴った知識の蓄積へ変わってきたのはうれしいことです。これで入館無料。私たち家族は隣接する森川公園で蝉とりをして弁当を食べ、そのあと博物館に寄って帰るとというのが定番コース。とにかく楽しいですよ。



市立博物館 ☎ 870-9317

ホームページ



# 茶 ぐわーゆんだく 65

## 「後生の花」に「お尻が塞がる葉」!

沖縄の一大イベントであるシチグワチ(旧盆)も終わり、ほっと一息ですね。すっかりトートミーにウートートウしましたか？ところで、仏壇といえば花活けには普段何を飾りますか？その名もスバリ、方言名トートミーギー(位牌木)が多いのではないのでしょうか。この和名マサキは、常緑木であるためヒメカンの花木としても好まれます。別名ビーギーとも言い、これは葉を折り曲げて作った草笛のビービーという音に由来します。



▲青々としたマサキ

また、よく見かけるブッソウゲの花には、アカバナ(赤い花)という方言名以外に、墓参りに行く時に持って行ったことからグソ

ーバナ(後生花)の名もあります。最近、実にポリフェノールの一種が多く含まれていることがわかったオオバギは、チビカタマヤーと言います。葉の裏を見ると、葉柄が端ではなく、真ん中についています。この特徴から、チビ(合)がカタマヤー(固まる)葉と呼ばれます。女性、特に妊婦がこの葉に座ったり、お尻を拭いたりすると「チビカタマヤーングワ ナスンドー(尻の塞がった子どもを産むよ)」と言われました。みなさんも、うっかり使わないように気をつけてくださいね!



▲オオバギの葉の裏側

お問い合わせ  
教育委員会文化課 ☎ 893-4430